

SPECIAL REPORT

# 畜産の生産コストDIは大幅に低下

## ～ 令和4年1月農業景況調査より ～

日本政策金融公庫・農林水産事業は令和4年3月23日、スーパーL資金又は農業改良資金の融資先のうち19,993先を対象に実施した「農業景況調査」(令和4年1月調査)の結果を公表した。今回の調査では、定例の景況調査のほか、担い手農業者が抱える経営課題とその解決に向けた取組について調査した。ここでは、本調査結果の概要を紹介する。

### 1. 調査の概要

- ・調査時期：令和4年1月
- ・調査方法：往復はがきによる郵送アンケート調査
- ・調査対象：スーパーL資金又は農業改良資金の融資先のうち19,993先
- ・有効回答数：7,171先（回収率35.9%）  
（内訳）

北海道稲作：721、都府県稲作：1,883、畑作：606、露地野菜：693、施設野菜：617、茶：113、果樹：353、施設花き：192、きのこ：81、北海道酪農：296、都府県酪農：296、肉用牛：489、養豚：253、採卵鶏：103、ブロイラー：98、その他：377

### 2. 農業の景況等

#### (1) 景況DI (表1参照)

DI (Diffusion Index = 動向指数) とは、前年と比較して「良くなった (良くなる)」とする回答者の割合 (%) から、「悪くなった (悪くなる)」とする回答者の割合 (%) を差し引いた値で、上向き (プラス値)、下向き (マイナス値) といった方向感を捉える指標である。

令和3年通年の農業景況DI (▲24.9→▲29.6) は前年実績から4.7ポイント低下した。令和4年の見通し (▲29.6→▲28.7) は3年実績からほぼ横ばいとなったが、畜産は全業種で低下した。

酪農は、北海道、都府県ともに、平成27年からの5年間にわたりプラス値を持続したが、令和2年にマイナス値に転じ、3年はさらに低下 (北海道：▲19.3→▲32.8、都府県：▲16.4→▲39.5) した。また、4年通年の見通しも引き続きマイナス値 (北海道：▲54.7、都府県：▲47.1) となり、厳しさを増す見通しである。

#### (2) 収支DI (表2参照)

農業全体の収支DIは引き続きマイナス値であり、果樹、施設花き、採卵鶏を除くすべての業種でマイナス値となった。特に養豚は前年から大きく低下し、マイナス値 (47.0→▲43.1) となった。

北海道酪農は平成27年から5年間にわたりプラス値を維持していたが、令和2年にマイナス値に転じ、3年はさらに低下した。都府県酪農は平成30年から4年連続のマイナス値であり、令和3年はマイナス幅が拡大 (▲14.5→▲45.9) した。

#### (3) 資金繰りDI (表3参照)

農業全体の資金繰りDI (▲16.3→▲24.7) は前年から8.4ポイント低下した。特に稲作 (北海道：▲40.4、都府県：▲41.6) で大幅なマイナス値となった。また、養豚 (37.7→▲24.5) は前年から大きく低下 (▲62.2ポイント) し、マイナス値となった。

表1 景況DIの推移 (抜粋)

	平成24年 実績	平成25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	令和元年 実績	2年 実績	3年 実績	4年 見通し
農業全体	13.2	▲1.4	▲33.7	16.8	20.0	21.2	▲11.1	6.0	▲24.9	▲29.6	▲28.7
北海道稲作	43.9	▲4.2	▲67.2	20.1	▲4.9	39.7	▲51.8	26.5	▲3.6	▲55.2	▲66.8
都府県稲作	36.2	▲10.2	▲71.0	▲3.8	23.6	10.3	▲10.7	11.4	▲33.4	▲55.9	▲39.9
畑作	1.6	▲27.6	▲5.3	35.2	▲17.6	34.8	▲22.7	31.6	▲32.3	0.2	▲19.8
露地野菜	6.7	15.1	▲15.7	14.3	14.7	7.5	▲3.4	▲9.3	▲32.8	▲21.4	▲11.5
北海道酪農	▲2.2	▲9.4	▲4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲19.3	▲32.8	▲54.7
都府県酪農	0.0	▲23.8	▲30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲16.4	▲39.5	▲47.1
採卵鶏	▲40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲61.2	▲38.9	▲43.8	22.6	▲58.3
ブロイラー	▲1.3	▲22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲2.1	▲20.4
養豚	▲38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲27.2	▲4.1	44.3	▲36.4	▲43.0
肉用牛	8.3	20.5	▲1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲0.2	▲43.9	▲3.1	▲12.0

出典：「農業景況調査(令和4年1月)」(日本政策金融公庫 農林水産事業本部)、以下同じ。

表2 収支DIの推移 (抜粋)

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
農業全体	12.5	▲7.0	▲39.7	14.2	16.7	14.7	▲20.1	▲1.5	▲27.6	▲35.1
北海道稲作	44.7	▲14.4	▲72.4	21.3	▲13.7	43.0	▲63.3	17.9	▲1.8	▲57.6
都府県稲作	37.8	▲22.0	▲76.7	▲6.5	23.8	2.2	▲18.8	4.5	▲38.5	▲60.5
北海道酪農	▲3.4	▲10.5	▲12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲24.3	▲45.9
都府県酪農	▲2.6	▲25.4	▲34.3	25.4	48.4	1.7	▲3.3	▲3.6	▲14.5	▲45.9
養豚	▲38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲34.9	▲7.8	47.0	▲43.1
肉用牛	9.9	20.2	▲7.6	50.8	48.6	7.0	▲4.1	▲7.3	▲48.4	▲12.3

酪農は、北海道、都府県ともに、平成27年からの5年間にわたりプラス値を持続したが、令和2年にマイナス値に転じた。令和3年は、特に都府県酪農（▲6.7→▲41.9）の低下幅が大きかった。

(4) 販売単価DI (表4参照)

農業全体の販売単価DI（▲42.2→▲42.6）は前年からほぼ横ばいで推移し、依然として大幅なマイナス値となっている。令和2年にマイナス値となった酪農は、北海道（▲37.8→▲53.2）、都府県（▲23.7→▲36.5）ともにさらに低下している。

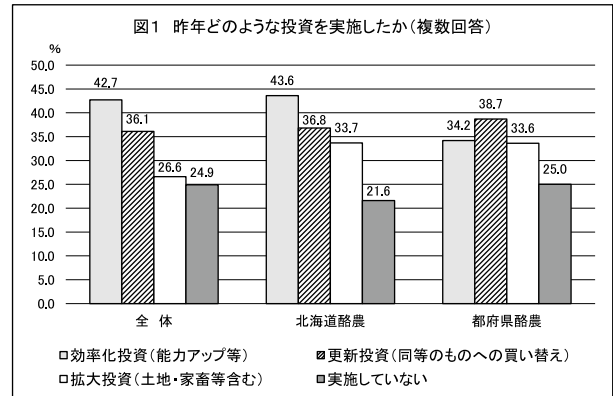
(5) 生産コストDI (表5参照)

生産資材価格等の高騰により、生産コストDIは全業種で低下した。中でも畜産（特に養豚：▲19.1→▲85.7）はマイナス幅の拡大が顕著になった。酪農も北海道（▲45.4→▲81.0）、都府県（▲38.5→▲81.4）ともにマイナス幅が拡大した。

(6) 設備投資予定ありの比率 (表6参照)

農業全体の「設備投資予定あり」の比率（46.1%→46.3%）は、前年から0.2ポイント上昇し、高い水準が続いている。

北海道酪農の「設備投資予定あり」の比率は、平成29年（53.7%）を境に低下傾向に転じて令和4年には38.6%まで低下した。また、都府県酪農にも同様の傾向がみられ、平成29年（58.0%）から令和2年（42.2%）まで低下傾向にあったが、3年（45.1%）には増加に転じて4年も微減に止まっている。



(7) 昨年どのような投資を実施したか (図1参照)

農業全体では、昨年（令和3年）実施した投資は「効率化投資」（42.7%）が最も高く、「更新投資」（36.1%）、「拡大投資」（26.6%）が続いた。

北海道酪農では、農業全体と同様に、「効率化投資」（43.6%）が最も高く、「更新投資」（36.8%）、「拡大投資」（33.7%）が続いた。都府県酪農では、「更新投資」（38.7%）が最も高く、「効率化投資」（34.2%）、「拡大投資」（33.6%）が続いた。なお、酪農では「拡大投資」の回答割合が他業種（肉用牛43.7%を除く）に比べて高くなった。

3. 経営が現在抱えている課題 (表7参照)

経営が現在抱えている課題（第1課題から第3課題までの積み上げ）は、農業全体では「生産性コストの増加」（71.8%）が最も高く、次いで「販売単価の低迷」（62.4%）、

表3 資金繰りDIの推移 (抜粋)

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
農業全体	9.8	▲0.9	▲29.2	7.6	15.5	15.5	▲4.7	0.4	▲16.3	▲24.7
北海道稲作	31.8	▲0.7	▲52.4	8.2	▲2.5	23.8	▲30.4	7.9	▲1.5	▲40.4
都府県稲作	29.2	▲6.7	▲59.2	▲10.7	13.5	7.3	▲5.9	4.9	▲22.0	▲41.6
北海道酪農	▲3.1	▲5.0	▲6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲12.0	▲30.3
都府県酪農	1.8	▲14.4	▲26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲6.7	▲41.9
養豚	▲26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲7.1	2.3	37.7	▲24.5
肉用牛	8.1	9.7	▲6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲25.6	▲8.4

表4 販売単価DIの推移 (抜粋)

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
農業全体	4.5	▲11.1	▲40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲6.9	▲42.2	▲42.6
北海道稲作	40.4	▲51.9	▲88.6	10.1	19.9	54.4	▲5.9	▲2.4	▲48.3	▲83.5
都府県稲作	43.3	▲58.7	▲88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲64.9	▲83.9
北海道酪農	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲37.8	▲53.2
都府県酪農	▲2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲23.7	▲36.5
養豚	▲71.5	70.1	84.1	26.9	▲15.1	63.6	▲55.0	▲24.5	52.8	▲21.8
肉用牛	▲4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲21.5	▲62.6	▲4.3

表5 生産コストDIの推移 (抜粋)

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
農業全体	▲50.7	▲62.9	▲66.3	▲44.7	▲19.1	▲25.2	▲37.1	▲38.8	▲36.2	▲68.1
北海道稲作	▲49.7	▲63.0	▲69.0	▲44.1	▲24.2	▲18.8	▲36.9	▲40.4	▲33.7	▲67.5
都府県稲作	▲38.3	▲43.6	▲53.2	▲36.5	▲11.5	▲11.2	▲18.2	▲19.3	▲30.8	▲56.3
北海道酪農	▲68.8	▲81.9	▲80.4	▲46.4	▲4.9	▲35.2	▲48.2	▲37.1	▲45.4	▲81.0
都府県酪農	▲67.5	▲8.5	▲83.6	▲46.6	▲0.7	▲32.9	▲40.4	▲46.6	▲38.5	▲81.4
養豚	▲65.9	▲69.6	▲59.8	▲17.7	16.9	12.1	▲37.0	▲24.7	▲19.1	▲85.7
肉用牛	▲65.7	▲83.1	▲81.9	▲63.1	▲37.3	▲41.3	▲46.7	▲37.4	▲30.9	▲80.8

表6 設備投資予定ありの比率の推移 (抜粋)

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
農業全体	37.3	42.0	39.5	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3	46.1	46.3
北海道稲作	45.3	48.8	39.7	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2	42.3	41.1
都府県稲作	45.7	50.9	46.1	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1	51.2	49.1
北海道酪農	24.7	32.0	27.8	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7	40.8	38.6
都府県酪農	34.0	34.3	35.9	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2	45.1	44.6
養豚	38.4	36.2	49.3	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2	54.0	51.2
肉用牛	30.8	37.8	36.5	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5	42.0	48.6

注) 設備投資予定ありの比率は、調査実施当年中の設備投資を「予定している」の割合。

「労働力の不足」(29.0%)となった。最も重要な課題(第1課題)としては、「販売単価の低迷」(46.4%)の割合が最も高くなった。

第1課題から第3課題までの積み上げでは、全ての業種で「生産コストの増加」が最も高くなっているが、北海道酪農と養豚の「労働力の不足」、都府県酪農と肉用牛の「資金の不足」は他業種に比べて特に高くなった。

4. 経営課題の解決に向けた取組 (表8参照)

経営課題の解決に向けた取組み (第1取組から第3取組

組までの積み上げ)は、農業全体では「効率化への設備増強」(49.2%)が最も高く、次いで「生産規模の拡大」(37.8%)、「人材確保、育成の強化」(28.4%)となった。最優先する取組み(第1取組)としては、「生産規模の拡大」(28.4%)の割合が最も高くなった。

全ての業種で「効率化への設備増強」が最も高くなったが、北海道酪農では「新技術の導入」、都府県酪農では「資金調達」が他業種と比べて高くなった。また、酪農(特に都府県酪農)では、「現状維持」が他の選択肢と比べて高くなった。

表7 経営が現在抱えている課題(課題として重要度が高い順に3つ選択)

単位: %

業種	項目	生産コストの増加	販売単価の低迷	労働力の不足	機械設備の不足	資金の不足	人材の不足	販路が限られている	後継者の不在	技術力の不足	各種情報の不足	その他	特に課題なし
農業全体	第一課題	28.2	46.4	5.2	4.1	3.6	3.9	1.5	3.7	1.5	0.1	0.7	1.2
	第二課題	36.5	10.7	11.3	9.6	6.7	6.3	3.5	4.0	4.1	1.0	0.5	0.0
	第三課題	7.1	5.3	12.5	11.0	14.0	8.0	11.5	4.5	4.6	3.7	1.6	0.0
	合計	71.8	62.4	29.0	24.7	24.3	18.2	16.5	12.2	10.2	4.8	2.8	1.2
北海道稲作	第一課題	9.6	79.2	1.7	2.1	1.5	1.1	0.3	3.1	0.4	0.0	0.8	0.1
	第二課題	55.6	7.3	6.9	9.4	5.4	2.8	2.0	4.6	1.5	0.8	0.7	0.0
	第三課題	8.6	4.1	14.1	17.7	13.9	4.2	8.3	6.1	2.3	5.2	1.3	0.0
	合計	73.8	90.6	22.7	29.2	20.8	8.1	10.6	13.8	4.2	6.0	2.8	0.1
都府県稲作	第一課題	8.9	72.2	2.5	3.9	3.4	2.0	1.3	3.7	0.7	0.1	0.3	0.9
	第二課題	45.0	7.7	7.4	10.1	5.9	4.5	4.0	6.5	3.8	0.7	0.2	0.0
	第三課題	6.8	3.5	10.1	12.0	16.2	6.5	16.3	6.3	4.1	3.7	1.6	0.0
	合計	60.7	83.4	20.0	26.0	25.5	13.0	21.6	16.5	8.6	4.5	2.1	0.9
北海道酪農	第一課題	47.2	22.6	8.0	2.1	3.8	5.2	1.0	4.9	1.4	0.0	1.4	2.4
	第二課題	27.1	24.0	11.1	9.0	6.3	6.3	2.1	3.8	4.5	0.3	1.4	0.0
	第三課題	8.3	7.6	14.2	9.7	15.3	11.1	5.2	3.8	5.6	1.4	1.0	0.0
	合計	82.6	54.2	33.3	20.8	25.4	22.6	8.3	12.5	11.5	1.7	3.8	2.4
都府県酪農	第一課題	56.8	26.9	4.8	2.4	4.1	1.4	0.3	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0
	第二課題	28.6	23.5	11.2	9.9	8.8	5.8	0.3	2.0	3.7	0.3	0.3	0.0
	第三課題	3.7	6.5	11.2	15.6	18.0	7.8	7.1	2.0	5.4	1.7	1.7	0.0
	合計	89.1	56.9	27.2	27.9	30.9	15.0	7.7	5.7	10.8	2.0	2.0	0.0
養豚	第一課題	67.7	15.5	6.4	2.4	0.8	4.0	0.4	0.8	0.4	0.0	0.4	1.2
	第二課題	17.1	17.5	13.9	8.8	5.6	12.7	2.8	3.6	5.2	1.2	0.4	0.0
	第三課題	3.2	8.0	10.4	3.6	10.4	12.4	7.2	2.4	7.2	4.8	2.4	0.0
	合計	88.0	41.0	30.7	14.8	16.8	29.1	10.4	6.8	12.8	6.0	3.2	1.2
肉用牛	第一課題	50.9	23.5	3.5	4.5	5.2	3.5	1.2	3.1	0.8	0.2	0.4	3.1
	第二課題	25.4	12.4	12.8	10.3	9.3	7.0	3.1	3.7	4.3	0.8	0.4	0.0
	第三課題	4.7	7.2	10.1	11.5	16.9	7.2	6.6	3.1	4.9	3.3	0.6	0.0
	合計	81.0	43.1	26.4	26.3	31.4	17.7	10.9	9.9	10.0	4.3	1.4	3.1

表8 経営課題の解決に向けた取組(取組として優先度が高い順に3つ選択)

単位: %

業種	項目	効率化への設備増強	生産規模の拡大	人材確保、育成の強化	新技術の導入	新品種の導入	加工・販売への取組	資金調達	事業計画の策定	ブランド化等の差別化	事業継承	HACCP・GAP等認定	輸出・海外展開	その他	事業の縮小	現状維持
農業全体	第一取組	22.6	28.4	6.3	5.5	6.1	5.9	2.5	3.3	3.1	2.2	1.1	0.8	0.5	1.7	9.9
	第二取組	20.6	5.2	10.1	11.3	8.0	5.6	4.9	5.0	5.0	3.4	1.6	1.3	0.3	1.8	4.7
	第三取組	6.0	4.2	11.9	8.4	5.7	4.0	7.9	5.1	4.8	3.9	1.9	1.0	1.0	1.2	9.1
	合計	49.2	37.8	28.3	25.2	19.8	15.5	15.3	13.4	12.9	9.5	4.6	3.1	1.8	4.7	23.7
北海道稲作	第一取組	21.9	33.9	2.0	6.6	3.4	3.7	1.5	3.5	2.3	2.0	0.3	1.7	0.6	2.3	14.5
	第二取組	22.9	4.5	5.3	17.0	5.5	5.9	5.3	6.2	2.8	3.0	0.7	1.3	0.3	2.1	5.6
	第三取組	5.1	4.1	7.9	13.2	6.6	3.9	7.0	6.0	2.8	2.4	0.8	1.3	1.1	1.1	10.4
	合計	49.9	42.5	15.2	36.8	15.5	13.5	13.8	15.7	7.9	7.4	1.8	4.3	2.0	5.5	30.5
都府県稲作	第一取組	21.9	33.9	4.0	5.1	6.2	5.9	2.3	3.4	2.7	2.6	0.9	0.5	0.4	0.9	9.4
	第二取組	23.5	5.4	9.0	10.6	8.2	6.5	4.8	5.3	4.2	3.6	1.1	1.5	0.5	1.3	3.4
	第三取組	6.4	4.4	11.6	9.6	6.2	4.7	7.4	5.2	4.9	4.5	1.9	1.0	0.9	1.3	8.3
	合計	51.8	43.7	24.6	25.3	20.6	17.1	14.5	13.9	11.8	10.7	3.9	3.0	1.8	3.5	21.1
北海道酪農	第一取組	25.5	24.5	8.4	6.6	1.0	2.1	1.7	5.6	2.1	2.8	1.0	0.0	0.7	4.2	13.6
	第二取組	20.6	4.5	15.0	11.9	0.7	1.0	3.1	8.0	3.5	4.9	0.0	0.3	0.0	2.8	8.0
	第三取組	6.3	3.8	12.6	8.0	1.0	1.4	8.0	6.3	1.0	7.3	2.1	0.0	2.8	0.7	9.4
	合計	52.4	32.8	36.0	26.5	2.7	4.5	12.8	19.9	6.6	15.0	3.1	0.3	3.5	7.7	31.0
都府県酪農	第一取組	23.5	26.9	7.8	3.7	2.4	3.7	5.1	3.4	0.3	3.1	2.0	0.0	0.7	1.4	16.0
	第二取組	17.3	7.1	10.2	11.6	1.4	3.1	8.5	7.5	0.7	3.7	0.3	0.3	1.0	1.4	8.5
	第三取組	5.4	3.4	11.9	6.1	1.7	2.7	8.8	4.4	1.4	5.1	0.7	0.0	1.4	0.7	12.6
	合計	46.2	37.4	29.9	21.4	5.5	9.5	22.4	15.3	2.4	11.9	3.0	0.3	3.1	3.5	37.1
養豚	第一取組	26.9	21.3	11.6	3.6	3.2	4.8	2.4	2.4	4.0	1.6	4.0	0.0	1.2	0.8	12.0
	第二取組	17.7	7.2	18.1	7.2	3.6	2.8	6.0	3.6	5.2	2.4	4.8	0.0	0.0	0.4	5.2
	第三取組	6.0	2.0	16.5	8.4	1.6	4.8	7.2	2.8	5.2	4.8	4.0	1.2	0.4	0.8	4.8
	合計	50.6	30.5	46.2	19.2	8.4	12.4	15.6	8.8	14.4	8.8	12.8	1.2	1.6	2.0	22.0
肉用牛	第一取組	22.4	32.2	6.9	3.6	2.3	2.3	3.8	3.6	6.1	2.3	2.1	0.8	0.4	2.3	9.0
	第二取組	21.8	6.7	9.2	9.4	2.9	2.5	6.7	5.4	5.6	5.0	2.1	2.1	0.0	1.7	5.2
	第三取組	6.1	3.1	10.5	4.2	2.9	2.1	14.6	3.8	4.6	4.0	1.3	1.7	0.8	0.8	10.7
	合計	50.3	42.0	26.6	17.2	8.1	6.9	25.1	12.8	16.3	11.3	5.5	4.6	1.2	4.8	24.9